



HOKKAIDO
UNIVERSITY

資料2

2017.3.24 平成28年度第2回北海道アザラシ管理検討会

アザラシ被害の実態 聞き取り調査結果概要

北海道大学
宮内泰介(環境社会学)

漁業被害の継続的な調査の必要性

- 管理計画の中心は漁業被害の軽減。
- しかし、漁業被害の実態は簡単ではない。
 - 漁協ごと、地域ごと、魚種ごと、漁業者ごとによって違う。被害は多面的。
 - 被害は数値にしにくい。
 - e.g. 魚が寄ってこなくなった、被害があるので漁をやめてしまった、などは現在の「被害額」には入っていない。
 - 被害は漁業の実態との関連の中で出てくるもの。
 - 「漁業の実態」= どのような漁業をどの時期にどの程度の規模で行っていて、それがどのような資源実態及び社会経済的な影響の元でどのような状況にあるのか



- 幅広い聞き取り調査を軸に被害実態、被害認識のモニタリングを継続する必要性



調査概要

1. **2016年7月** 礼文島(船泊漁協、香深漁協)
 2. **2016年11月16～18日** 環境省北海道海鳥センター、るもい漁協、るもい漁協天売支所
 3. **2017年1月16日** 稚内漁協、宗谷漁協
- 漁協および漁業者からの聞き取り。なるべく多くの漁業者からの聞き取りを試みる。
 - アザラシ被害だけでなく、漁業全体の状況を合わせて聞き取り。トド・オットセイ被害も含めて聞く。
- 以下の「結果」は短い時間での聞き取り調査によるもののため、不確実な点が多いことに留意。



礼文島(船泊漁協、香深漁協からの聞き取り)

1. 刺し網(**4~10月のホッケ**、**11~3月のタラ**):トドの被害が中心。アザラシの被害は「ある」という漁業者と「ない」という漁業者。
2. タコかご漁(船泊漁協では**5軒**ほど):アザラシの被害あり(とくにトド島周辺)。しかし、被害がないという漁業者もいる。香深漁協の方もタコかご漁でのアザラシ被害があるが、**15軒**ほどのタコかご漁漁師は、タコかごが中心ではなく、小遣い稼ぎ程度なので、被害はあまり言われぬ。
3. 中心的なステークホルダーである漁業者兼ハンターたち:「アザラシの被害については、一時よりは被害は減った」「トド島周辺は捕獲の効果が出ている」



羽幌・苫前(北るもい漁協)(漁協からの聞き取り)

1. 主にマガレイの刺し網(3月中旬～6月中旬)で被害。

- 羽幌**12～13**名、苫前**25**名、初山別**4**人、合計**40**名程度が並んで刺し網(**3**キロ程度)を張るが、被害がある人(網)とない人(網)とがある。
- トドかアザラシかオットセイか判別しないところがある。網を大きく破られるのはトド。網をやられるのが被害としては厳しい。被害はおよそ半分がトド半分、**1/4**がアザラシ、**1/4**がオットセイくらいか。しかし、とくに駆除はやっていない。



天売島(北るもい漁協天売支所)(漁協及び漁業者からの聞き取り)

1. ヤリイカの定置網(4月半ば～5月)が大きな被害(アザラシ)。

- イカを食われる被害中心。定置の場所によって違う。アザラシの生息地に近いところがヤリイカの定置網の漁場としてもよい場所で、そこがいちばん被害大きい。
- 天売のヤリイカ定置は複数の漁業者による協業事業で、この時期はみなヤリイカ定置を行う。
- 4～5月のヤリイカの刺し網の前に駆除したいという要望があるが、ちょうど海鳥の繁殖時期と重なり、環境省としては「海鳥に影響を与えるような駆除は許可できない」。(環境省北海道海鳥センターの聞き取りから)→その後、駆除が一部行われることに

2. 刺し網(タラ、マガレイなど。周年)が被害。食われる被害(アザラシ)と網を破られる被害(トド)。



焼尻島(北るもい漁協天売支所からの聞き取り)

1. ヤリイカの定置網(4月半ば~5月)が被害。

- イカを食われる被害中心。
- しかし、ハンター(以前は羽幌からのハンター、現在は地元ハンター2名)による捕殺(4月半ば)の効果で、被害は少なくなっている。

2. タコの樽流し漁でも少し被害(トド)。



稚内漁協

1. 全般的に被害があるが、抜海地区と声問地区の被害が大きい。
抜海漁港には多数のアザラシが滞留。
2. 小型定置網(5月半ば～8月)(ヤリイカ、ホッケ、ニシン、マス、カレイ):アザラシのせいではほとんど水揚げがない
3. 刺し網(カレイ・カスベ)に被害:沖ではトドの被害、沿岸側ではアザラシの被害
4. タコの空(から)網漁に被害
5. サケの定置網(8月末～)に被害:とくに声問地区が被害
6. 小型定置網、カレイ・カスベの刺し網、タコ空網は、アザラシ被害のために漁をやめてしまう人が多い。
7. 振興局漁港係からの許可が出ず、抜海漁港の港内で陸からの駆除ができない問題。現在は港外に追い出してから船からの駆除なので、効率が大変悪い。



宗谷漁協

1. サケの定置網に大きな被害:アザラシ被害で休業する人も。夏のマスの定置もアザラシ被害でやめた人も。
2. タコ箱漁に大きな被害
3. コンブの被害:アザラシの糞の影響
4. モズク:漁獲量が減っている原因としてアザラシ被害があるのではないか。
5. 小型定置網(7~8月のマスがメイン)は、アザラシ被害でやらなくなった(10年前:約30軒→現在2~3軒のみ)
6. ニシンの刺し網について、アザラシ被害でやめた人も。
7. 害獣対策協議会設置、漁業者ハンター5名設置。これからトド・アザラシの駆除・追い払いを行う予定。



まとめ

地域	アザラシおよびトドの主な被害	対策と課題
礼文島	刺し網(ホッケ、タラ)、タコかご漁	漁業者ハンターによる駆除が効果？
羽幌・苫前	刺し網(マガレイ)	
天売島	ヤリイカの定置網、刺し網(タラ、マガレイなど)	ハンターがいない。鳥獣保護区のため駆除ができない。→その後、駆除が一部行われることに
焼尻島	ヤリイカの定置網、タコ樽流し漁	地元ハンター 2 名による駆除が効果？
稚内漁協	小型定置網(ヤリイカ、ホッケ、カレイなど)、タコ空網漁、刺し網(カレイ・カスベ)、サケ定置網	アザラシが多数いる漁港内での駆除ができない。
宗谷漁協	サケの定置網、タコ箱漁、コンブ、モズク、小型定置網、ニシンの刺し網	害獣対策協議会設置、漁業者ハンター 5 名設置

今後

- ・漁業被害の観点からは、トド、アザラシ、オットセイの被害の全体を見る必要。
- ・漁業者を中心としたステークホルダー調査を、聞き取り調査を中心として各被害地で継続的に行っていく必要。
 - ・ 漁業被害は数値化しにくいことを認識する必要。
 - ・ 単に漁業被害が増えた、減っただけでなく、漁業を軸に地域社会の動向の中で被害がどう認識されているのか、どういう位置づけにあるのかを、多角的かつ継続的にモニタリングし、管理計画にフィードバックする必要。

